

プーチン大統領への公開謝罪状

平和統一 NEWS No.73 (2014/10月号)

渡辺 久義

「親愛なるプーチン大統領、ならびにロシア国民の皆さま」という、公開の、誰でも署名できる謝罪状をネット上で発見し、さっそく翻訳して「創造デザイン学会」最新情報欄に載せたところ(9/11)、翌日、世界各国語欄に日本語も加わって、私とほとんど同時に翻訳した人があることがわかった。現に日本人の名前も散見する。現時点(9/26午前)で署名者は44,000を超え、相当の勢いで増えている。見ている限り米国籍者が少ないのは、現在の警察国家アメリカでは(少なくとも本名では)非常に危険だからであろう。プーチンへの謝罪の手紙は、オランダの大学教授有志のものなど他にもある。

直接のきっかけとなったのは、ウクライナ上空でのマレーシア旅客機撃墜事件と、それに続く“ロシアのウクライナ侵略”デマである。7月17日のMH17機撃墜については、米追従の世界中の新聞が、調査も何もないうちに「人殺しプーチン」(英紙 The Sun)などと書きたてて、ロシア犯行説を煽った。しかしこれに対するロシア側の冷静なデータによる質問に、ワシントン-キエフは答えることができず、ウクライナ犯行の証拠は続出し、結局これは、9・11と同じ“伝統的な”もう一つのニセ旗攻撃であった。

このプーチン大統領への公開謝罪状で注目すべきは、「アメリカ最後の偉大な大統領ジョン・F・ケネディ」の、おそらく直接の暗殺の原因になった演説の一節が引かれていることである。

我々はどこでも、一枚岩的な非情な陰謀によって敵に回されています。彼らは自分たちの勢力範囲を拡大するのに、秘密の手段を用いています——侵略の代わりに密かな侵入、選挙の代わりに政権転覆、自由な選択の代わりに脅し、昼の軍隊の代わりに夜のゲリラといったものです。

このやり方によって彼らは、膨大な人間的・物的資源をかり集め、軍事、外交、諜報、経済、科学、そして政治的な諸作戦を一つに結集する、緊密に組まれた、高度に有効な機構を構築してきました。…その準備は秘密にされ公開されません。その間違いは隠され表には出ません。それに反対する者は黙らされ、褒められることはありません。いかなる出費も問題にされず、いかなる噂も印刷されず、いかなる秘密も表れることはありません。

ません。

これはアメリカの影の政府“イルミナティ”のことであって、ケネディ大統領は自国を告発していたのである。（こうした政府内の陰謀勢力の暗躍については、アイゼンハワーも退任演説で警告した。）この手紙は、「このとき以来、アメリカと他の西側諸国の政府は、この〈非情な陰謀〉にすっかり侵^{おか}されてしまいました」と言っている。

ところでプーチンが相手にしているのもこの同じ世界的陰謀団であって、ケネディとプーチンは同じ相手と戦っているのである。だからケネディは英雄だがプーチンは悪者だなどと言うことはできない。もしプーチンを悪者にしたら、ケネディ悪者説を取らねばならない。

プーチンの態度を見ていると少し不思議に思えないだろうか？ 身に覚えのない人殺しの罪を着せられても彼は黙っている。彼は事実を調べよと言うだけで、最初から取り合う様子を全く見せていない。この時点ですでに彼の勝ちだが、それは彼が相手にしているのは、オバマでもポロシェンコでもラスマッセン（NATO 議長）でもなく、この“地球の敵”だからである。

そう考えるのは、デイヴィド・ウィルコックの『ザ・シンクロシティ・キー』やその他の書き物に根拠がある。この根源の巨悪とひそかに戦っている国際的な「同盟」がかなり前から存在し、ロシアがその中心的役割を果たしているのだという。この巨悪のからくりにもっと興味があるのはロシアであって、これは、ウィルコックが **Financial Tyranny**（金融暴政）という、暴露的なオンライン本を書いたときに、いち早くこれに飛びついて、長時間物のテレビ番組を作ったのが、ロシアであることからわかるであろう。このがんじがらめの悪の世界の仕組みを、一番よく知っているのがロシアだと思われる。これは彼らの資金源を断つ方法を知っているということである。カネ儲けのための彼らの一番のビジネスは戦争なので、今彼らに対テロと称して至る所を爆撃し、世界を戦争と混乱に陥れようとしている理由がこれでわかる。

ところで今行われている国連総会でのオバマ大統領の演説の、ビデオと全文が **Information Clearing House** というサイトに出ている。「オバマの国連スピーチ：偽善、ウソ、そして世論操作」(Sep. 24, 2014) という題で、その下に“読者は嘔吐用の袋を用意するのがよいかもしれません”と書いてある。そして末尾の読者コメント欄は、「最後まで聞く（読む）に耐えられなかった」といった反応が圧倒的である。確かにここまで悪びれることもなく、世界に向かって演説できるというのは、異常人格者といってよいであろう。もしオバマ氏が職務上努力して、ここまで自分を鉄面皮に鍛え上げたとするなら、気の毒の一語しかない。